

●児童・生徒の学力向上を図るための調査(小5)

課題の見られた問題の概要	結果
2つの乾電池のつなぎ方を変えたときの回路の名称を理解している。	28.8%
電気を通す物は金属であることを理解している。	32.2%
気温の変化を温度計などを使用して適切に測ることができる。	39.0%
記録温度計を使って記録した気温を、正しく読み取ることができる。	44.1%

●調査結果を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
○意識調査で、関心、意欲、態度が高いことから理科の楽しさを実感している児童が多い。	○関心、意欲、態度が高い割に、基礎的、基本的な知識、既習の学習が定着していない。 ○資料や結果を比較したり、関連付けたりする力が身に付いていない。 ○理論的に考えながら実験や観察を行っていないことが考えられる。

●調査結果を踏まえて学校全体で取り組む内容

○基礎的、基本的な知識を定着させる。 ○既習事項や日常生活の事象などと関連付けながら、実験や観察をする機会を設ける。 ○実験器具の操作方法を丁寧に説明し、一人一人が操作する機会を設ける。

●調査結果を踏まえた学年ごとの課題及び改善策

学年	児童の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
3年生	○基礎的、基本的な知識が定着していない。	○映像教材を使用して視覚的に理解を深めた上で具体物を操作する実験へつなげる。 ○単元学習後も定期的に掲示物等を利用して振り返り、知識の定着を図る。
4年生	○基礎的、基本的な知識が定着していない。 ○結果をまとめたり、結果を基に考察し、その内容を記述したりする力が身に付いていない。	○単元学習後も定期的に振り替える機会を授業の中で設ける。 ○実験結果を表や図、グラフにまとめる方法を指導する。
5年生	○基礎的、基本的な知識が定着していない。 ○グラフなどの資料を読み取り、思考、表現する力が低い。	○単元学習後も定期的に振り替える機会を授業の中で設ける。 ○実験結果を表や図、グラフで正確にまとめる活動を取り入れる。また、その結果から考察できることをまとめるための方法や、視点を提示する。
6年生	○正しい実験器具の操作方法の理解が定着していない。 ○グラフから読み取ったことを基に考察し、その内容を記述する力が身に付いていない。	○実験器具の操作方法を丁寧に指導し、一人ひとりが操作する機会を設定する。 ○考察の視点を提示し、図や絵、文を用いて表現する活動を取り入れる。

●前年度の取組及び本校の実態を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
<p>○観察や実験の意欲が高い。</p> <p>○結果や考察、結論をまとめるための手立てがあると、自分の力で書くことができる児童が増えている。</p>	<p>○見える変化には気づきがあるが、予測をしたり、その現象が起こる理由を考えたりするなど、見えないことに対して想像する力が弱い。</p> <p>○結果や考察、結論をまとめるための手立てがないと、自分の力で書くことができない。</p> <p>○既習内容や日常生活の事象と新たな課題を結びつけて考えることができない。</p>

●学年ごとの課題及び改善策等

学年	児童の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
3年生	<p>○実験や道具を使った活動に意欲的に取り組む。</p> <p>○実験器具の操作や、実験をして分かったことを適切に記録する力を身に付けさせる。</p> <p>○植物の観察や実験の考察などは、抽象的な表現になりがちである。具体的な数字で表現したり、結果の理由を考えて書いたりする技能を身に付けさせる必要がある。</p>	<p>○実験器具の使い方については、教師が見本を示すとともに、器具の操作に長けた児童を中心とした小グループを編成し、お互いに声をかけ合いながら協働的に学習する機会を設定する。また、適切に使えない場合は、教員が実験を行って、児童に見せるなどの安全面を考慮したやり方をしていく。</p> <p>○まとめの型を作り、観察の視点を焦点化する。板書を通し、1時間の学習を振り返りながら考察が書けるようにする。</p>
4年生	<p>○実験や道具を使った活動に意欲的に取り組む。</p> <p>○生活経験の違いにより、内容の理解に差が出る。</p> <p>○植物の観察や実験の考察など、見たままのことしか書けず、自ら予想を立てたり結果の理由を考えて書くことができない児童が多い。</p>	<p>○道具の扱い方を指導し、安全な活動になるよう徹底する。</p> <p>○まとめの型を作り、観察の視点をしぼる。板書をとおして、1時間の学習を振り返りながら考察が書けるようにする。</p> <p>○児童の疑問や言葉を大切に、体験的な活動を積極的に行う。</p>
5年生	<p>○事象への関心が高く、実験や観察への意欲が高い。</p> <p>○実験や観察結果を正確に、分かりやすくまとめることが苦手な児童が多い。</p> <p>○結果から結論を導いたり、考察したり、日常の事象と関連づけて考えたりする力が弱い。</p>	<p>○児童に身近で分かりやすい事象を提示し、課題につながる疑問を生むようにする。</p> <p>○実験・観察方法を考えさせ、見直しをもって意欲的に学習に取り目躍ようにする。</p> <p>○問題解決学習を繰り返し、科学的思考力を育てる。</p> <p>○事実と考えを区別しながら、工夫して表現する機会を多く設ける。</p>
6年生	<p>○事象への関心が高く、実験に意欲的に取り組める。</p> <p>○実験結果を分かりやすくまとめたり、結果から分かることをまとめることが得意な児童と苦手な児童の二極化が生じている。</p> <p>○学習したことを日常生活と関連付けることが難しい児童が多い。</p>	<p>○導入で児童に身近な事象と出合わせて、学習問題を立てさせる。</p> <p>○結果をまとめるために必要な観点や、方法を提示する。また、文章の型を提示する。</p> <p>○学習したことに対して、実践的理解を深められるような探究活動を取り入れる。</p>

●学校全体で取り組む内容

- 実験器具の使い方、実験の仕方を視覚化したり、ルールを設定したりする。
- 児童から生まれる疑問をもとに課題を設定し、児童が探究心をもって課題解決に取り組めるよう、導入を工夫する。
- 各学年ごとに、結果や考察、結論の書き方や、書く視点や方法を提示する。
- 学習したことを日常生活の事象に結びつけさせる。